

グリーンウェーブ

やまぐち農試だより

17 号

平成18年2月
編集・発行
山口県農業試験場

探険！ 体験！！ 大発見！！



山口県農業試験場の8月のイベント「農・畜・林試験研究ウォッチング」は今年度で4回目。恒例行事として浸透しつつあり、当日は小中学生を中心に約700人の来場者でにぎわいました。また、毎年行っている行事としては、小学生の田植え・稲刈り体験学習もあります。今年度も大内小学校と大内南小学校の5年生が自分たちの手で田植え・収穫作業を体験しました。その他、小中学生の社会見学も数多く受け入れています。

農業試験場では、このような体験をとおして、子どもの頃から自分たちの食生活を支えている農業について理解を深めてもらう活動もしています。



<主な内容>

- ◇試験場育成品種の紹介「酒米『西都の雫』」, 「いちご『山口ST9号』」
- ◇こんな研究をしています！～生産環境部 作物栄養グループ
栽培技術部 園芸栽培グループ～

『養液土耕で夏秋トマトの安定生産』

- ◇新しい部が出来ました！～企画普及部～
- ◇カンキツ研究の今～大島柑きつ試験場試験成績検討会開催～
- ◇山大との連携スタート！

やまぐちオリジナル品種を育成しています！

～ 育種開発部 ～

試験場育成品種の紹介

酒米「西都の雫」

(平成16年12月品種登録出願)

「西都の雫」は、山口県の篤農家（伊藤音市氏）が育成した「穀良都」と酒造用品種「山田錦」を片親に持つ「西海222号」を交配し育成した酒造適性の優れる品種です。「山田錦」より短稈で倒れにくく、収量も多く、栽培しやすいのが特長です。



また、一般酒から高度精米による吟醸酒まで幅広く利用できます。

平成17年度は下関市豊田地区を中心に約7ha栽培され、これを原料とした日本酒が平成18年から市販される予定です。



いちご「山口ST9号」

(平成16年12月品種登録出願)



「山口ST9号」は、食味が良い系統と果実が大きく硬い系統を交配し育成した、果実が大きく硬めで、味も良い品種です。

イチゴの重要病害であるうどんこ病に強いので、農薬の量を減らした栽培が可能です。また、葉や茎が立っているため栽培しやすいのが特長です。

平成18年度から本格的な普及を目指すことにしています。



養液土耕で夏秋トマトの安定生産

灌水施肥管理の省力化、施肥量の低減、生育状態に合わせた灌水や施肥管理が可能な栽培技術として注目されている養液土耕[※]は、県内の夏秋トマト産地でも導入が進んでいます。そこで、養液土耕での夏秋トマトの安定生産を目指した(1) 土壌条件に合わせた灌水施肥管理方法と、(2) 生育状態に応じた施肥管理のための栄養診断方法を確立しました。

※養液土耕：点滴チューブを用い、作物の生育に合わせて必要な水と肥料（液肥）を自動的に供給する栽培方法

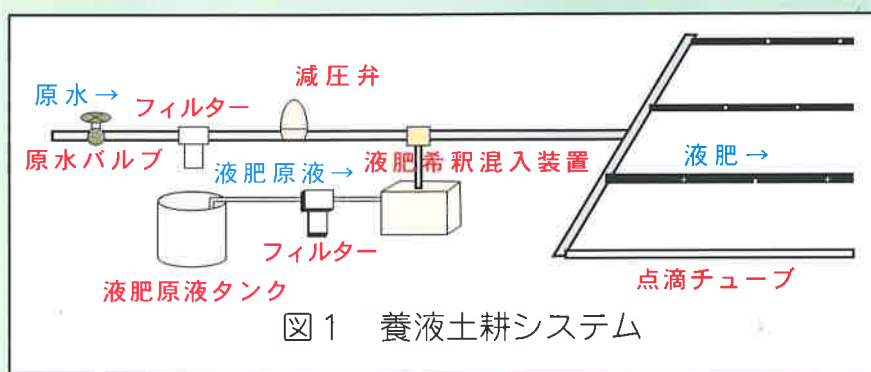


写真1
養液土耕による
夏秋トマトの栽培風景

研究成果は以下のとおりです。

- (1) 堆肥の施用量が多いほ場では、養液土耕の標準施肥管理に比べ、施肥の開始時期を遅らせる必要があり、窒素の施肥量さく減も可能です。
- (2) トマトの小葉葉柄を用いた栄養診断により、生育にあわせた施肥量の調整が可能です。

【栄養診断方法】

- ① 果実が3～5 cmに肥大した果房直下の葉から基部の小葉を切り取る。
- ② 小葉葉柄をすりつぶし水で希釈する。
- ③ 希釈した液の硝酸濃度を測定する。

養液土耕の利点を活かし、堆肥の量やトマトの生育状態に応じた灌水や施肥を行うことにより、夏秋トマトの安定生産が可能となります。

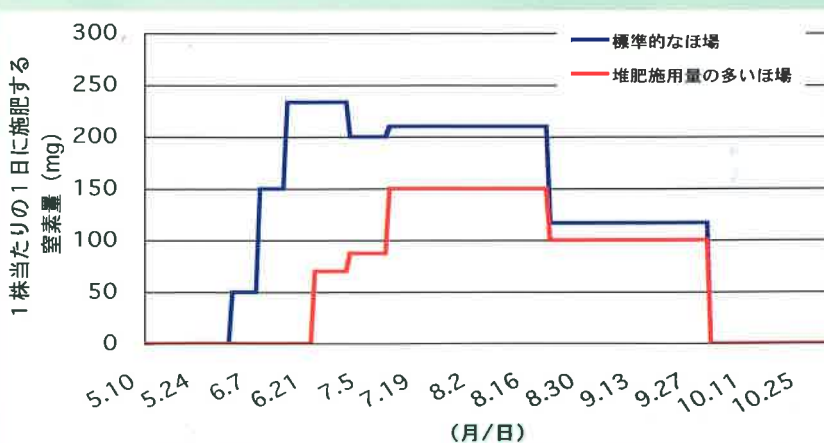


図2 堆肥施用量の多いほ場での施肥管理



写真2
栄養診断に使う小葉

[研究成果の詳しい内容を御希望の方は農業試験場まで御連絡ください。]

新しい部が出来ました☆

～企画普及部の紹介～

平成17年4月、農業試験場に新たに「企画普及部」が誕生しました。この企画普及部は、専門普及班、企画情報班、農村計画班の3つの班で構成されており主に次のような仕事をしています。

【専門普及班】

各専門分野のエキスパートが集結し、生産者への直接指導や調査・研究、試験研究成果の普及、普及指導員の資質向上研修等を行っています。



普及指導員研修の様子



省力機械化実演会の様子

【企画情報班】

企画情報班では、場内の研究総括、各部の調整、試験研究成果のPR、外部との調整等を行っています。

【農村計画班】

将来の農村のあり方を研究しています。

総勢24人の大きな部ですが、それぞれの個性を活かし、試験研究と普及指導員や生産者の架け橋となるよう熱い思いでがんばっています！

カンキツ研究の今！

10月20日、平成17年度大島柑きつ試験場試験成績検討会を行いました。

研究中の新品種の紹介、「せとみ」の栽培方法および病害虫の研究トピックスについて発表を行い、活発な意見交換がなされました。



山大との連携スタート！



平成17年6月、「山口大学農学部・山口県農林関係試験研究機関連携推進会議」が発足しました。

地域に密着した研究を目指し、8つの部会（連携調整・園芸特産・土地利用型作物・環境・病害虫・農山村・獣医畜産・林業）で具体的に調査・研究を進めています。

＜山口県農業試験場＞

〒753-0214 山口市大内御堀1419 TEL(083)927-0211 FAX(083)927-0214

URL <http://www.nourin.pref.yamaguchi.lg.jp/hp/kenkyu/nougyou/index.htm>

※皆さまからの御意見、御要望をお待ちしております。